

# 標準様式

## 目 次

### 1. 精度管理表

#### 【基準点測量】

様式第1—1	基準点測量精度管理表 その1	1
様式第1—1—1	基準点測量精度管理表 その1—2	2
様式第1—1—2	基準点測量精度管理表 その1—3	3
様式第1—2	基準点測量精度管理表 その2	4
様式第1—3	水準測量精度管理表	5
様式第1—4	G N S S測量機による水準測量精度管理表	6

#### 【地形測量及び写真測量】

様式第1—5	標定点設置精度管理表	7
様式第1—6	平面直角座標系への変換 精度管理表	8
様式第1—7	解析結果 精度管理表( Loosely Coupled 方式 )	9
様式第1—8	解析結果 精度管理表( Tightly Coupled 方式 )	10
様式第1—9	調整点設置(単点観測法) 精度管理表	11
様式第1—10	調整処理 精度管理表(数値図化用データ補正)	12
様式第1—10—1	図化用データ点検 精度管理表	13
様式第1—11	合成結果 精度管理表	14
様式第1—12	U A V撮影コース別精度管理表(数値地形図作成)	15
様式第1—13	空中三角測量精度管理表(数値地形図作成)	16
様式第1—14	簡易水準測量精度管理表	17
様式第1—15	対空標識設置精度管理表	18
様式第1—16	フィルム航空カメラ撮影コース別精度管理表	19
様式第1—17	フィルム航空カメラ撮影ロール別精度管理表	20
様式第1—17—1	残存縦視差の測定	21
様式第1—18	撮影コース別精度管理表(空中写真の数値化)	22
様式第1—18—1	撮影ロール別精度管理表(空中写真の数値化)	23
様式第1—19	デジタル航空カメラ撮影コース別精度管理表	24
様式第1—20	G N S S / I M U計算精度管理表	25
様式第1—20—1	G N S S / I M U計算精度管理表(航空レーザ測量)	26
様式第1—21	同時調整精度管理表	27
様式第1—22	細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集 補測編集・数値地形図データ作成精度管理表	28
様式第1—23	数値図化精度管理表	29
様式第1—24	数値地形図データファイル精度管理表	30
様式第1—25	写真地図作成精度管理表	31
様式第1—26	グラウンドデータ作成作業精度管理表	32
様式第1—27	グリッドデータ作成作業精度管理表	33
様式第1—28	数値地形図データファイル精度管理表(航空レーザ測量)	34

【三次元点群測量】

様式第1—29	UAV撮影コース別精度管理表（三次元点群作成）	35
様式第1—30	三次元形状復元精度管理表（三次元点群作成）	36

【応用測量】

様式第1—31	条件点測量精度管理表	37
様式第1—32	IPの設置測量精度管理表	38
様式第1—33	中心線測量精度管理表	39
様式第1—34	縦断測量精度管理表	40
様式第1—35	横断測量精度管理表	41
様式第1—36	用地幅杭設置測量精度管理表	42

【河川測量】 【用地測量】

様式第1—37	境界点間測量精度管理表	43
様式第1—38	用地実測図データファイルの作成精度管理表	44
様式第1—39	用地平面図データファイルの作成精度管理表	45

2. 品質評価表

【各測量共通】

様式第2—1	品質評価表（総括表）	46
様式第2—2	品質評価表（個別表）	47

3. 成果等

【基準点測量】

様式第3—1	基準点成果表 その1	48
様式第3—2	基準点成果表 その2	49
様式第3—3	点の記	50
様式第3—4	水準測量観測成果表	51
様式第3—5	地盤沈下調査水準測量成果表（変動計算簿）	52
様式第3—6	水準点の記	53
様式第3—7	成果数値データファイル標準様式	54
様式第3—8	基準点現況調査報告書	55
様式第3—9	測量標設置位置通知書	56
様式第3—10	測量標新旧位置明細書	57

【地形測量及び写真測量】

様式第3—11	標定点成果表	58
様式第3—12	標定点明細表	59
様式第3—13	標定点・地上レーザスキャナ配置図	60
様式第3—14	調整点・検証点明細表	61
様式第3—15	カメラキャリブレーション実施記録（数値地形図作成）	62
様式第3—16	対空標識点明細表	63
様式第3—17	フィルム航空カメラ撮影記録簿	64

様式第3—18	デジタル航空カメラ撮影記録簿	65
様式第3—18—1	デジタル航空カメラ撮影諸元	66
様式第3—19	固定局観測記録簿	67
様式第3—20	空中写真数値化 作業記録簿・点検記録簿	68
様式第3—21	航空レーザ測量システム点検記録	69
様式第3—22	固定局明細表	70
様式第3—23	航空レーザ計測記録	71
様式第3—24	調整用基準点・コース間点検箇所配点図	72
様式第3—25	調整用基準点明細表	73
様式第3—26	三次元計測データ点検表	74
様式第3—27	調整用基準点調査表	75
様式第3—28	コース間点検箇所残差表	76
様式第3—29	欠測率調査表	77
様式第3—30	調整用基準点残差表	78
様式第3—31	既存データ検証結果表	79

#### 【応用測量】

様式第3—32	縦断測量成果表	80
様式第3—33	点の記	81
様式第3—34	土地境界確認書	82
様式第3—35	土地調査表	83
様式第3—36	建物の登記記録等調査表	84
様式第3—37	権利者調査表	85

#### 4. 建標承諾書

様式第4—1	建標承諾書（基準点）	86
様式第4—2	建標承諾書（水準点）	87

#### 5. 確定測量点検記録表等

様式第5—1	一筆地測量点検記録表	88
様式第5—2	筆界点座標検束記録簿	89

#### 6. 標準様式の記載における注意事項

標準様式の記載における注意事項	90
-----------------	----

# 1. 精 度 管 理 表

基準点測量

# 基準点測量精度管理表 その1

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算				摘要
					水平位置		標高				単位重量の標準偏差	許容範囲	高低角の標準偏差	許容範囲	
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲							
									再測率						

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式
特記事項		

用紙の大きさはA4判とする。

# 基準点測量精度管理表      その1—2

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算					摘要	
					水平位置		標高				新点位置の標準偏差 (m)						
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲			点番号	水平	許容範囲	標高	許容範囲		

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式
特記事項		

用紙の大きさはA4判とする。

## 基準点測量精度管理表 その1—3

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算					摘要	
					水平位置		標高				新点位置の標準偏差 (m)						
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲			点番号	水平	許容範囲	標高	許容範囲		

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

簡易網平均計算						
各路線の残差						
路線番号	方向角 (°)	許容範囲 (°)	座標差 (cm)	許容範囲 (cm)	高低差 (cm)	許容範囲 (cm)

用紙の大きさはA4判とする。



## 基準点測量精度管理表 その2

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

基線解析辺			仮定三次元網平均						三次元網平均計算	
測点名		辺長 (斜距離)	ΔX又は方位角		ΔY又は斜距離		ΔZ又は楕円体比高		斜距離の残差	
自:	至:		残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設形式
特記事項		

新点位置の標準偏差				
新点名	水平位置		標高	
	標準偏差	許容範囲	標準偏差	許容範囲

点検測量					
測点名		セッション番号		較差 (dN,dE,dU)	許容範囲
		点検値 (ΔX,ΔY,ΔZ)	採用値 (ΔX,ΔY,ΔZ)		
自:	至:				

用紙の大きさはA4判とする。

# 水準測量精度管理表

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		点検者	
目的		期間		作業量		主任技術者			

環番号	距離	閉合差	許容範囲	観測者	距離	鎖部数	観測者毎標準偏差	正の回数	負の回数	零の回数	正の総和	負の総和	摘要	特記事項
			往復差から求めた全線の 1 km 当たりの標準偏差							単位重量当たりの観測の標準偏差				

主要機器名称及び番号	観測路線図	再測率				
		点検測量				
		区間	距離	点検値	採用値	較差
永久標識種別等						

用紙の大きさはA4判とする。

# GNSS測量機による水準測量精度管理表

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		作業班長				
目的		期 間		作 業 量		主任技術者						
基線解析辺		前後半の基線ベクトルの較差			仮定三次元網平均 基線ベクトル各成分の残差			三次元網平均計算		主要機器名称及び番号		
測点番号及び測点名		$\Delta N$ (m)	$\Delta E$ (m)	$\Delta U$ (m)	$\Delta X$ (m)	$\Delta Y$ (m)	$\Delta Z$ (m)	斜距離の残差 (m)				
自	至	許 容 範 囲										
既知点の楕円体高の閉合差				点 検 測 量						永久標識種別等		
測点名		楕円体高		測点名		点検値	採用値	較 差	較 差	種別	数量	埋設法
自	至	閉合差	許容範囲	自	至			$\Delta X, \Delta Y, \Delta Z$	$\Delta N, \Delta E, \Delta U$			
										特記事項		

用紙の大きさはA4判とする。



# 地形測量及び写真測量

# 標定点設置精度管理表

地区名		作業量		作業機関名		主任技術者		点検者		
点名	測量方式	平均法	座標較差 (最大)		高低の誤差又は較差 (最大)	内角の閉合差 方向角の較差 (最大)				
			X	Y						
			m	m	m					
使用機械						備考				

用紙の大きさはA4判とする。

注 1. 測量方式は、結合多角、単路線等を記入する。  
 2. 平均法は、厳密水平(高低)網、簡易水平(高低)網又は三次元網平均等を記載する。

## 平面直角座標系への変換 精度管理表

作業名		レーザスキャナ名		計画機関名		主任技術者	
観測年月日		機器番号		作業機関名		点検者	

点 名	標定点 (m)			観測座標 (m)			残差 (m)			備 考
	X	Y	Z	X'	Y'	Z'	$\Delta X$	$\Delta Y$	$\Delta H$	
許容範囲										

8

用紙の大きさはA4判とする。

# 解析結果 精度管理表 (Loosely Coupled 方式)

作業名		システム名		計画機関名		主任技術者																		
地区名		取得年月日		作業機関名		点検者																		
走行路線名		キネマティック解析 (使用ソフト)			仰角マスク 度		除外された GNSSデータ数		最適軌跡解析 (使用ソフト)															
取得路線数		使用した固定局		1)	2)	3)	最大連続除外数																	
取得 路線	開始 時刻	終了 時刻	衛星数		DOPの平均値(上段) と最大値(下段)			往復差の 平均値(上段)と 最大値(下段) (m)				解の品質基準				位置標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段) (m)			位置標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段) (m)			姿勢標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段) (度)		
			平均(上段)	最少(下段)	PDOP	HDOP	VDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定 フロート 解	収束 フロート 解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	

用紙の大きさはA4判とする。



# 解析結果 精度管理表 (Tightly Coupled 方式)

作業名		システム名				計画機関名		主任技術者												
地区名		取得年月日				作業機関名		点検者												
走行路線名		最適軌跡解析 (使用ソフト)				仰角マスク				度										
取得路線数		使用した固定局	1) reference point	2)	3)	4)	5)	6)												
取得路線	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均 (上段) 最少 (下段)	DOPの平均値 (上段) と最大値 (下段)			往復差の 平均値 (上段) と 最大値 (下段) (m)			解の品質基準				位置標準偏差の 平均値 (上段) 及び 最大値 (下段) (m)			姿勢標準偏差の 平均値 (上段) 及び 最大値 (下段) (度)			
				PDOP	HDOP	VDOP	X (E)	Y (N)	Z	フィック ス解	安定 フロート 解	収束 フロート 解	その他	X (E)	Y (N)	Z	X (E)	Y (N)	Z	

用紙の大きさはA4判とする。

## 調整点設置(単点観測法)精度管理表

セット間較差許容範囲  
 $\triangle X$  ( $\triangle N$ )、 $\triangle Y$  ( $\triangle E$ ) =                      m

作業名		計画機関名		主任技術者	
地区名		作業機関名		点 検 者	

観測点 番号 名称	座標	1セット (m)	2セット (m)	セット間 較差 (m)	平均値 (m)	備考
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					
	X Y					

注. セット間較差の許容範囲は、X、Y座標の比較とする。

用紙の大きさはA 4判とする。

## 調整処理 精度管理表(数値図化用データ補正)

作業名		走行路線名		計画機関名		主任技術者	
地区名		システム名		作業機関名		点 検 者	

No.	点名	調整点			補正座標			差				調整点 の用途	備考
		X	Y	H	X	Y	H	dx	dy	dxy	dh		
												検証	
					/	/	/	/	/	/	/	調整	
												検証	
位置図								点数					
								最大値					
								最小値					
								平均値					
								RMS誤差					

用紙の大きさはA4判とする。

## 図化用データ点検 精度管理表

作業名		走行路線名		計画機関名		主任技術者	
地区名		システム名		作業機関名		点 検 者	

No.	点 名	調 整 点			計測座標 (オリジナル)			差				調整点 の用途	備 考
		X	Y	H	X	Y	H	dx	dy	dxy	dh		
												検証・調整	
位置図								点数					
								最大値					
								最小値					
								平均値					
								RMS 誤差					

用紙の大きさはA4判とする。

## 合成結果 精度管理表

作業名		走行路線名		計画機関名		主任技術者	
地区名		システム名		作業機関名		点 検 者	

No.	特徴点座標			ファイル名 (1)			ファイル名 (2)			ファイル名 (3)			ファイル名 (4)			備考
	X	Y	Z	dx	dy	dz	dx	dy	dz	dx	dy	dz	dx	dy	dz	

- 注 1. 特徴点座標には、全ファイルを座標変換して合成する場合には合成結果を  
特定のファイルを基準にして合成する場合には特定ファイルでの座標を記載する。
2. 合成の基準となったファイルの残差は 0 となる。
3. 許容範囲は 1 画素。

用紙の大きさは A 4 判とする。

# UAV撮影コース別精度管理表(数値地形図作成)

地区名 地名	カメラ	名称	計画			作業名
		画素数	地上画素寸法	基準面高	対地高度	
撮影日時	飛行方向	センサーサイズ	cm	m	m	主任者
		名称				
年月日	W—E N S	焦点距離	年 月 日			社内検査
h:m		ISO				
風速		画像記録方式	年 月 日			年 月 日
m/s		データ形式	年 月 日			年 月 日
		ビット数	年 月 日			年 月 日

ファイル名	コース番号	写真番号	採 否	コース方向 重複度		航跡の ずれ	色調の 良否	光輝暗影		ボケ・ブレ	ケラレ	スマア	ノイズ	対標明 否	隠蔽部 の有無	障害事項 その他
				最小 0L	主点 基線長			ハレーション	暗影部							
平均及集計						(最大)										

注. ハレーションは、場所の判別（海、川、池、屋根等）を記入する。

コース間重複度

コース番号	写真番号		最小 SL (%)
コース間 重複度 (%)			
コース番号	写真番号		最小 SL (%)
コース間 重複度 (%)			
コース番号	写真番号		

用紙の大きさはA4判とする。

# 空中三角測量精度管理表(数値地形図作成)

作業名又は地区名				作業量		作業期間		作業機関名				主任技術者		
												点検者		
コース番号	撮影高度	写真番号	モデル数	標定 点				標定 点 残 差				地上画素寸法	cm	
				使用点数		除外点数		水平位置		標高		バンドル法	<input type="checkbox"/> セルフキャリブレーション付き 誤差モデル	
				水平位置	標高	水平位置	標高	標準偏差	最大	標準偏差	最大		<input type="checkbox"/> 最適軌跡解析付き	
												交会残差		
	(m)	~						(m)	(m)	(m)	(m)		(mm)	(mm)
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
		~												
制限値 (地図情報レベル: )														
使用機械		作業者		社内検査期間 人日数		再測率		備考						

- 注 1. セルフキャリブレーションおよび最適軌跡解析を使用した場合は□にチェックを入れ、誤差モデルを記入する。  
 2. バスポイント及びタイポイントの交会残差の単位は、mm 単位で記入する。  
 3. 計算から除外した点がある場合は、備考欄にその理由を明記する。

用紙の大きさはA 4判とする。

## 簡易水準測量精度管理表

作業名又は 地区名		作 業 量		作 業 機 関 名		主任技術者		点 検 者	
		点							
路線番号	距 離	閉合差の 許容範囲	閉合差	路線番号	距 離	閉合差の 許容範囲	閉合差		
	km	mm	mm		km	mm	mm		
使用機器					備 考				

用紙の大きさはA4判とする。

注 1. 閉合差の制限は、 $50 \text{ mm}\sqrt{S}$ （既知点から既知点までの閉合差）、 $40 \text{ mm}\sqrt{S}$ （環閉合差）により算出する。  
 2.  $S$ は観測距離（片道、km単位）とする。



# 対空標識設置精度管理表

地区名		作業量	作業機関名		主任技術者	点検者		
		点						
明細簿 ページ	点名	写真番号		型	像の 見え	偏心距離	計算	備考
		コース	写真					
磁針定数決定箇所		使用既知点数		定数の決定法		備考		
箇所		点		算出				

用紙の大きさはA4判とする。

注1. 4倍以上の部分引き伸ばし空中写真上での対空標識の写りを次の判別記号で表示する。

◎：良く見える ○：なんとか判別できる ⊗：間接（p<sub>2</sub>）表示

注2. 計算の欄は、再計算の有無等について記入する



## フィルム航空カメラ撮影ロール別精度管理表

作 業 名		作 業 量	km <sup>2</sup>	作 業 機 関 名		点 検 者	
地 区 ( 地 方 ) 名				主 任 技 術 者			

番 号	ロール 番 号	撮影年月日	コース名	写 真 番 号		指 標 残 差 (mm)				残 存 縦 視 差 (mm)			備 考	
				左	右	左 S . D	左 MAX	右 S . D	右 MAX	0.020 以下	0.021～ 0.030	0.031以上		

- 注 1. 指標残差の制限値は、同時調整の規定を準用する。
2. 指標残差及び残存縦視差の測定は、第282条に規定する方法で数値化された空中写真に対してデジタルステレオ図化機を用いて行う。
3. 指標残差の測定は、撮影日当り 1 モデルの測定。( 1 ロール 2 モデルは必ず行う。 1 ロール 3 日かかれば 3 モデル。 1 日 2 ロール撮れば 4 モデルの測定となる)
4. 残差は、S . D = 0.020 mm 以内。MAX = 0.030 mm 以内。
- 用紙の大きさは A 4 判とする。

## 残存縦視差の測定(mm)

1 +	2 +	3 +	4 +	5 +
6 +	7 +	8 +	9 +	10 +
11 +	12 +	13 +	14 +	15 +
16 ○+ 主点	17 +	18 +	19 +	20 +○ 主点
21 +	22 +	23 +	24 +	25 +
26 +	27 +	28 +	29 +	30 +
31 +	32 +	33 +	34 +	35 +

用紙の大きさはA4判とする。

注 1. 残存縦視差の測定位置は、主点基線を軸として密着写真上で横 2 cm、縦 3 cm の間隔を標準とする。

2. 出力データと対比できるように、測点番号を明記する。また、縦視差が制限を超えた地点は、その大きさを明記する。

## 撮影コース別精度管理表(空中写真の数値化)

地区名 地方名		縮 尺	撮影年月日		作 業 機関名	
コース名			使用スキャナ 装 置		主 任 技術者	
カメラ名		ロール 番 号	数値化 寸 法		点検者	
飛行方向	→		ビット数		社内検査 年 月 日	年 月 日
数値化 月 日	月 h m 日 h m		データ形式		その他	

写真番号		採 否	範 囲 良 否	指 標 明 否	番 号 明 否	カ ウ ン タ	カ メ ラ 情 報 明 否	ゴ ミ ・ き ず	ボ ケ ・ ブレ	色 調 良 否	障 害 事 項 他 の
カ ウ ン タ 番 号	編 集 番 号										

用紙の大きさはA4判とする。









# GNSS/IMU計算精度管理表(航空レーザ測量)

作業名または地区名		計測年月日		使用機器			計画機関名			主任技術者															
		対地高度(m)		使用カメラ			作業機関名			点検者															
		キネマティック解析(使用ソフト)			仰角マスク			除外されたGNSSデータ数		最適軌跡解析(使用ソフト)															
コース数		使用した固定局		1)		2)		3)		最大連続除外数															
コース番号	計測高度 (m)	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均(上段) 最少(下段)	DOPの平均値(上段) と最大値(下段)			往復差の 平均値(上段)と 最大値(下段)(m)			解の品質基準				位置標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			位置標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(m)			姿勢標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段)(度)				
					PDOP	HDOP	VDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス 解	安定 フロート解	収束 フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z		
作業者		社内検査期間		人日		オフセット・ ボアサイト値		オフセット REF→GNSS		dx=	dy=	dz=	オフセット REF→IMU		dx=	dy=	dz=	ボアサイト REF→IMU		同時調整 Tx=		Ty=	Tz=		

用紙の大きさはA4判とする。



細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集 精度管理表  
 補測編集・数値地形図データ作成

作業名又は地区名		図名又は図面番号		縮 尺		作 業 量		作 業 期 間		作業機関名		主任技術者		点 検 者	
								自 年 月 日 至 年 月 日							
項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記
境界等 (11**)	種類			公共施設	形状 (41**)			諸 地 (621*)	区域界形状			※	図名又は図面番号		
	形状				記念碑等 (420*)				記号の種類				図郭及び方眼寸法		
道 路 (210*)	道路記号・道幅			その 他 の 小 物 体	消火栓 (421*)			場 地 622*, 3*	記号の種類			整	座標値等		
	形状				噴水・井戸(422*)				記号の位置				概見図行政区画図		
道 路 施 設	橋 (220*)				タノ・高塔 (423*)			植 生 (63**)	植生界等形状			飾	方位		
	階段・トンネル (221*)				灯台 (424*)				等 高 線 (71**)	植生記号の種類				等	図歴等
	構築物 (222*)				観測所 (425*)			形状				接 合	その他		
	側溝・並木(223*)				輸送管 (426*)			数値							
	道路標識等(224*)			水 部	形状 (51**)			変形地 (72**)	種類						
付属物(225*, 6*)			栈橋 (520*)				位置・種類								
鉄 道 (23**)	記号及び軌道幅			水 部 構 造 物	護岸 (521*)			基準点 (73**)	数値						
	形状				滝・水門 (522*)				注	行政名					
鉄 道 施 設	橋・トンネル(240*, 1*)				水制 (523*)			居住地名							
	雪覆い等 (242*)				流水方向 (524*)			交通施設							
建 物 (30**)	種類				距離標 (525*)			建物等							
	形状			人工斜面 (610*)			小物体								
建物付属物 (34**)				法 面	被覆 (611*)			記	水部等						
建物記号 (35**)	種類				法面保護 (612*)				土地利用						
	位置			構 囲	さく (613*)				地形等						
公共施設	種類				へい (614*)										

- 注 1. 各工程作業ごとに、該当する項目を選んで図面単位に作成する。該当しない項目欄には斜線で抹消する。  
 2. 各項目の脱落、誤記等は点検紙に基づいて集計し、その個数を記載する。  
 3. ※印欄は、地形補備測量の場合記載しない。  
 4. (\*\*\*)は、取得分類コードを示す。

用紙の大きさはA 4判とする。

# 数値図化精度管理表

図郭及びモデルの範囲

地区名		地図情報レベル		作業期間	自 年 月 日
図名又は図葉番号		作業量			至 年 月 日
モデル番号	1	2	3	4	5
図化機名					
作業員					

作業機関名	
主任技術者	
点検者	

--	--	--

モデル番号	コース番号	写真番号		対地標定記録 (上段：基準点、下段：パスポイント等)										標定使用点数 上段：平面 下段：標高	接合の良否 上段：モデル間 下段：図郭間			
				平面位置の標定残差(m)*		標高の標定残差(m)												
		左	右	許容範囲内	許容範囲を超える	0.1 以内	0.2 以内	0.3 以内	0.5 以内	0.7 以内	1.0 以内	1.5 以内	1.5 を超える					
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		

モデル番号	図式分類 (図化漏れ数、誤コード数) 上段：図化漏れ、下段：誤コード																		備考
	境界等 (11**)	道路 (21**)	道路 施設 (22**)	鉄道 (23**)	鉄道 施設 (24**)	建物 (30**)	建物 付属物 (34**)	建物 記号 (35**)	公共 施設 (41**)	その他 小物体 (42**)	水部 (51**)	水部 構造物 (52**)	法面 構圍 (61**)	諸地 場地 (62**)	植生 (63**)	等高線 (71**)	変形地 (72**)	基準点 (73**)	
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			

注 1. \*平面位置の標定残差は第106条で規定する各地図情報レベルの誤差の許容範囲で判断する。

2. 図葉単位に作成する。

用紙の大きさはA4判とする。

# 数値地形図データファイル精度管理表

作業名又は地区名	図郭名又は図郭識別番号	地図情報レベル	作業量	作業期間	作業機関名	主任技術者	点検者
				自 年 月 日 至 年 月 日			

項目	細 目		範囲	論理	目視	項目	細 目		範囲	論理	目視	項目	細 目		範囲	論理	目視										
ファイル形式	レコード長		ファイルごと			レコード内容	デックス	座標系		レコード	レコード内容	レコード	注記	字隔		レコードごと											
	文字コード			計画機関名				線号																			
	記述書式			図郭識別番号				注記データ																			
	格納方式			内容記述				データの重複																			
	ラベル			図郭名称				方向性																			
				地図情報レベル				属性						属性データ													
レコード相互関係	ファイル全体		ファイルごと			レコード内容	レコード	タイトル名		レコード	レコード	レコード	レコード	グリッド		レコード・フラッグごと											
	デックス	図郭レコード		レコード					レコード					レコード	座標値の単位		レコード	レコード	レコード	レコード	取得分類		レコード				
		要素ヘッダレコード			作成年月			現地調査年月							レコードタイプ												
		要素レコード			入力機器名			公共測量承認番号							使用データタイプ												
		グリッドヘッダレコード			測地成果識別コード			図郭識別コード							方向規定区分												
		2・3次元座標レコード			変換手法識別コード			作業機関名							座標次元区分												
		要素数			撮影コース番号			撮影年月							グループ処理												
	図郭	レコード数		レコード					レコード					レコード	写真縮尺		レコード	レコード	レコード	レコード	転位処理フラグ		レコード				
		要素ヘッダ			要素			写真枚数							間断処理フラグ												
		要素レコード			実データ			写真番号							数値化区分												
		グリッドヘッダ			グリッド			要素ヘッダ							図形区分												
								要素							実データ区分												
					グリッド		精度区分																				
レコード相互関係	インデックスレコード		レコードごと			レコード	レコード	取得年月		レコード	レコード	レコード	レコード	注記区分		レコード											
	図郭レコード			数値化区分				取得年月						転位区分													
	要素ヘッダレコード			取得年月				取得年月						間断区分													
	要素レコード			取得年月				文字列の方向						属性区分													
	グリッドヘッダレコード			取得年月				字大						縦横区分													

- 注1. データファイル単位で作成する。  
 2. 該当しない項目欄は斜線で抹消する。

用紙の大きさはA4判とする。

# 写真地図作成精度管理表

世界測地系(測地成果○○○○)

作業名		作業機関名			主任技術者		点検者				
地区名		図郭名		作業期間		自 年 月 日 ~ 至 年 月 日					
写真地図データファイル					数値地形モデル						
番号	測定値		検測値		残差	番号	平面位置		測定値	検測値	残差
	x	y	X	Y			X	Y			
1						1					
2						2					
3						3					
4						4					
5						5					
6						6					
7						7					
8						8					
9						9					
10						10					
11						11					
12						12					
13						13					
14						14					
15						15					
16						16					
17						17					
18						18					
19						19					
20						20					
21						21					
22						22					
23						23					
24						24					
25						25					
色調		歪み		写真接合		図郭接合		許容範囲		地図情報レベル	
								平均値		平均値	
								最大値		最大値	
								標準偏差		標準偏差	
								水平位置 (標準偏差)			
								標高点 (標準偏差)			

注. 点検箇所は21点以上とする。

用紙の大きさはA4判とする。

## グラウンドデータ作成作業精度管理表

作業地区名		作業量	k m <sup>2</sup>	作業機関名	
				主任技術者	
				点検者	

フィルタリングの点検結果										備考
図名	交通施設			建物等	小物体	水部等	植生	低密度の 範囲	その他	
	道路施設等	鉄道施設等	移動物体							

- 注 1. 点検結果は、地図情報レベル2500の図郭単位で整理する。  
 2. 精度管理表は、地図情報レベル5000の図郭単位で作成する。  
 用紙の大きさはA 4判とする。

## グリッドデータ作成作業精度管理表

作業地区名		作業量	k m <sup>2</sup>	作業機関名	
				主任技術者	
				点 検 者	
グリッドデータ作成作業の点検記録					備 考
図 名	標高値の誤り	グリッドの不備	属性データの不備	接合の不備	

- 注 1. 点検結果は、地図情報レベル 2500 の図郭単位で整理する。  
 2. 精度管理表は、地図情報レベル 5000 の図郭単位で作成する。

用紙の大きさはA 4判とする。



## 数値地形図データファイル精度管理表(航空レーザ測量)

作業地区名					作業機関名			
地図情報レベル 2500図名		作業量		k m <sup>2</sup>	主任技術者			
					点 検 者			
数値地形図データファイル作成作業の点検記録								備 考
項 目	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造 の良否	ヘッダフォー マットの良否	テキストフォー マットの良否	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否	ポリゴン図形 ファイル構造の 良否	
オリジナルデータ			/	/	/	/	/	
グラウンドデータ			/	/	/	/	/	
グリッドデータ	/	/	/	/	/	/	/	
水部ポリゴンデータ	/	/	/	/	/	/	/	

注. 点検記録は、不良箇所数を記載する。

用紙の大きさはA 4判とする。

# 三次元点群測量

# UAV 撮影コース別精度管理表(三次元点群作成)

地区名 地名	カメラ	名称	計 画			作業名 機 関 名	
		画素数	地上画素 寸 法	基準面高	対地高度		
		センサーサイズ	pixel × pixel				
撮影日時	飛行方向 N W — E S	名称	cm	m	m	主 任 者 技 術 者	
年 月 日		焦点距離					
h:m		ISO				シャッター速度	点 検 者
~		画 像 記 録 方 式		計画OL	%	計画SL	
風 速		データ形式	重複率点検方法			社 内 検 査	年 月 日
m/s					年 月 日		

【画質】

ファイル名	コース番号	写真番号	採否	色調の良否	ハレーション・暗影部	ボケ・ブレ	ゴミ・ノイズ	隠蔽部の有無	対標明否	障 害 事 項 そ の 他

【コース方向重複度(OL率)】

ファイル名	コース番号	写真番号	コース方向重複度	航跡のずれ
			(最小OL)	
			%	(最大値) %

【コース間重複度(SL率)】

コース番号	コース間重複度	コース番号		コース間重複度	コース番号
写真番号		ファイル名	写真番号		写真番号
最小値 (最小SL)		%		%	

用紙の大きさはA4判とする。

注1. OL率及びSL率は、採用した写真のみを用いて計算するものとする。  
 注2. OL率90%以上かつSL率60%以上で撮影計画を立案した場合は、OL率及びSL率の点検を省略できるものとする。

## 三次元形状復元精度管理表(三次元点群作成)

作業名または地区名		調整方法		作業期間		作業機関名		主任技術者	
				自 年 月 日				点 検 者	
				至 年 月 日					
SfMソフト名	計画OL率	計画SL率	作業量	コース数	写真枚数	地上画素寸法	対地高度		

標定点の交会残差			
	X	Y	交会残差
最大値			

※単位は、ソフトによる。

検証点の交会残差			
	X	Y	交会残差
最大値			

※単位は、ソフトによる。

備考
(作業範囲において歪みが大きいところ、色調が悪いところなどを書く)

標定点の残差					検証点の較差			
点名	区分	dx	dy	dh	点名	dx	dy	dh
平均値					平均値			
最大値					最大値			

注. 区分には、外部標定点は外、内部標定点は内を表示する。

用紙の大きさはA4判とする。

用紙の大きさはA4版とする。

# 応用測量

## 路線測量

仮BM設置測量精度管理表・・・水準測量に準ずる

詳細測量精度管理表・・・・・・縦断測量、地形測量及び写真測量に準ずる

# 条件点測量精度管理表

作業名		地区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者		その他	

測点	水平位置 (距離)				摘要	測点	水平位置 (距離)				摘要
	計算値	測定値	較差	許容範囲			計算値	測定値	較差	許容範囲	

用紙の大きさはA4判とする。

# IP の設置測量精度管理表

作業名		地区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者		その他	

測 点	水平位置 (距離)				摘 要	測 点	水平位置 (距離)				摘 要
	計算値	測定値	較 差	許容範囲			計算値	測定値	較 差	許容範囲	

用紙の大きさはA4判とする。

# 中心線測量精度管理表

作業名		地区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者		その他	

測点	水平位置(距離)				摘要	測点	水平位置(距離)				摘要
	計算値	測定値	較差	許容範囲			計算値	測定値	較差	許容範囲	

用紙の大きさはA4判とする。



## 縦断測量精度管理表

作業名		地 区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期 間	自 至	作 業 量		主任技術者		その他	

路線番号	距 離	閉 合 差	許容範囲	摘 要	路線番号	距 離	閉 合 差	許容範囲	摘 要	観測者
										主要機器の名称及び番号
										レベル
										標尺 (箱尺)
										手簿、計算簿の誤りの有無
										再測率%

用紙の大きさはA 4判とする。

# 横断測量精度管理表

作業名		地区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者		その他	

測 点	水 平 位 置 (距 離)								標 高								摘 要	
	測定値		検測値		較 差		許容範囲		測定値		検測値		較 差		許容範囲			
	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側		
																		手簿、計算簿の誤りの有無

41

用紙の大きさはA4判とする。

## 用地幅杭設置測量精度管理表

作業名		地 区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期 間	自 至	作 業 量		主任技術者		その他	

測 点	水 平 位 置 (距 離)				摘 要	測 点	水 平 位 置 (距 離)				摘 要
	計算値	測定値	較 差	許容範囲			計算値	測定値	較 差	許容範囲	

用紙の大きさはA4判とする。

# 河川測量

- 距離標設置測量精度管理表・・・中心線測量に準ずる
- 水準基標測量精度管理表・・・水準測量に準ずる
- 定期縦断測量精度管理表・・・縦断測量に準ずる
- 定期横断測量精度管理表・・・横断測量に準ずる
- 法線測量精度管理表・・・中心線測量に準ずる
- 海浜測量精度管理表・・・横断測量及び地形測量に準ずる

# 用地測量

## 境界点間測量精度管理表

作業名		地 区		計画機関名		作業機関名		点検者	
路線名		期 間	自 至	作 業 量		主任技術者		その他	

測 点	水 平 位 置 ( 距 離 )				摘 要	測 点	水 平 位 置 ( 距 離 )				摘 要	
	計 算 値	測 定 値	較 差	許 容 範 囲			計 算 値	測 定 値	較 差	許 容 範 囲		

注. 境界点間測量精度管理表は、境界点間測量観測簿を兼ねる。  
用紙の大きさはA 4判とする。

用地実測図データファイルの作成精度管理表

地区名		地図情報レベル				作業機関名				主任技術者				点検者			
図名又は図面番号																	
項目	指摘	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱		
		記	落	記	落	記	落	記	落	記	落	記	落	記	落		
基準点位置																	
基準点名称																	
基準点の座標値																	
中心点位置																	
中心点名称																	
境界点位置																	
境界点名称																	
境界標の種類																	
用地取得線																	
境界線・行政界																	
境界方向線																	
土地の所在																	
地番																	
符号・不動産番号																	
境界辺長																	
地目																	
所有者等																	
面積計算書	地番																
	符号・不動産番号																
	地目																
	所有者等																
	境界点名称																
	境界点座標値																
	境界点間距離																
	面積																
	一筆地実測地積																
公簿地積																	
接合																	
整飾																	
図郭・方眼寸法																	

- 注1. 「図郭・方眼寸法」は規定寸法より0.4mm以上の差が出たものを記載する。
2. 該当項目に集計する場合は、用地実測図のデータ項目に従って集計する。
3. 画線の太さの相違及び図式の誤りは誤記に含める。
4. ネットワーク型 RTK 法による場合は、電子基準点の名称を記載する。
5. 辺長の点検は、数値及び図示寸法とする。
6. 登記情報による地目はカッコ書きとする。
7. 計算書の最後に、残地を含め一筆地実測地積を合計する（該当地番のみ）
8. 図面に該当項目のないものは斜線で該当欄を消す。
9. 土地の分筆をした場合など不動産番号が確定していない場合は、地番に符号をつける。  
（例えば 309-2A 309-2 は地番で A は符号）

用地平面図データファイルの作成精度管理表

地区名		地図情報レベル				作業機関名				主任技術者				点検者			
図名又は図面番号																	
項目	指摘	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落	誤記	脱落		
	基準点位置																
基準点名称																	
中心点位置																	
中心点名称																	
境界点位置																	
境界点名称																	
境界標の種類																	
用地取得線																	
境界線・行政界																	
土地の所在地番																	
符号・不動産番号																	
地目																	
所有者等																	
公共用地名称																	
建物	図示																
	* 家屋番号																
	* 種類																
	* 構造																
	* 床面積																
	* 所有者等																
* 恒久的地物																	
* 引照データ																	
構囲・小物体等																	
接合																	
整飾																	
図郭・方眼寸法																	

- 注 1. 「図郭・方眼寸法」は規定寸法より0.4mm以上の差が出たものを記載する。  
 2. 該当項目に集計する場合は、用地平面図のデータ項目に従って集計する。  
 3. 画線の太さの相違及び図式の誤りは誤記に含める。  
 4. 登記情報による地目はカッコ書きとする。  
 5. 図面に該当項目のないものは斜線で該当欄を消す。  
 6. \*印は計画機関の指示により、とくに記載する事項。  
 7. 土地の分筆をした場合など不動産番号が確定していない場合は、地番に符号をつける。  
 (例えば 309-2A 309-2 は地番で A は符号)



## 2. 品質評価表

各測量共通

## 品質評価表 総括表

製 品 名			
ライセンス		作成時期	
作成者		座 標 系	
領域又は地名		検査実施者	

番号	データ品質適用範囲	品質要求					品質評価結果 (合否)
		完全性	論 理 一貫性	位 置 正確度	時 間 正確度	主 題 正確度	

用紙の大きさは A4 判とする。

## 【参考】

- ・空間データ製品仕様書作成マニュアル 国土地理院
- ・JMP2.0 仕様書 国土地理院
- ・品質の要求、評価及び報告のための規則 国土地理院

## 品質評価表 個別表

データ品質適用範囲				
品質要素		品質要求	品質評価方法	品質評価結果
完全性	過剰			
	漏れ			
論 理 一貫性	書式一貫性			
	概念一貫性			
	定義域一貫性			
	位相一貫性			
位 置 正確度	絶対又は外部 正確度			
	相対又は内部 正確度			
	グリッドデータ位置 正確度			
時 間 正確度	時間測定正確度			
	時間一貫性			
	時間妥当性			
主 題 正確度	分類の正しさ			
	非定量的属性の 正しさ			
	定量的属性の 正確度			

用紙の大きさは A 4 判とする。

## 記載要領

1. データ品質適用範囲は、品質評価の対象とするデータの内容又は範囲を記述する。  
(地物の名称等データの特性や空間的な範囲、時間範囲を指定する。)
2. 品質要求は、製品仕様書に記述されている品質要件の概要を記述する。
3. 品質評価方法は、製品仕様書に記述されている品質評価方法の概要を記述する。
4. 品質評価結果は、品質評価方法に基づいた評価結果を記述する。



## 3. 成 果 等

### 基準点測量

GNSS測量機による水準測量の成果表・・基準点成果表 その1を準用する

# 基準点成果表 その1

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇)  
 ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver. 〇  
 調製 年 月 日


基準点成果表  (AREA )  <hr style="width: 80%; margin: 0 auto;"/> B X L Y  N H  柱石長 縮尺係数						
視準点の名称		平均方向角		距離		備考
				m		
埋標形式	地 上	地 下	屋 上	標 識 番 号	標 石 金 属 標	

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. 直接水準測量で標高決定されている場合、標高右隣に「(直接水準による)」と記載する。  
 2. GNSS測量機による水準測量は、「基準点成果表」を「3級水準点成果表」と記載する。  
 3. GNSS測量機による水準測量は、標高右隣に「GNSS (水準による)」と記載する。



## 点 の 記

ふりがな 点 名		1/20 万図名	1/2.5 万図名	
選 点 番 号	第 号	埋 標 形 式	(保護石 個)	
標 識 番 号	第 号		柱 石 長	
所 在 地				地 目
所 有 者				
選 点		選 点 者		
設 置		設 置 者		
観 測		観 測 者		
自動車到達地点				
歩 道 状 況				
徒歩時間(距離)				
点 周 囲 の 状 況				
履 歴 (1)				
履 歴 (2)				
備 考				アンテナ高 m
要 図 縮尺：1/				
<p style="text-align: center;">N</p> 				

用紙の大きさはA4判とする。









# 成果数値データファイル標準様式

## 基本構造

- 1) 1行1レコードのカンマ区切りのテキストファイルとする。
- 2) 文字コードはASCIIコード、漢字コードはシフトJISコードとする。
- 3) 拡張子は“TXT”とする。
- 4) レコードの記述方法

データ区分	区切り	項目1	区切り	・・・	項目n	区切り	CRLF
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

データ区分 その行のデータの種類の表す記号。1文字目が英字、2,3文字目が数字の3文字とする。  
 区切り 各データの項目は、「,」（カンマ）によって区切るものとする。  
 項目を省略する場合は、「,」とする。（スペースは入れない。）  
 項目1～項目n データ区分に応じて項目数は変わる。項目数は記述内容のとおり。  
 CRLF 各行の終了コード（OD0Ah）で、各行の最大長は、CRLFを含まず、128バイトとする。

## 留意事項

- 1) 名称・コメントなど、文字として認識するデータには、“, ”（カンマ）を使用しない。
- 2) 点名称、測器名称、標尺名称、水準点番号などの名称、コメントは全角文字(英数字については半角文字を原則とする)とし、それ以外のデータは、半角文字とする。

## 記述内容

### 1) 説明文

データ区分：Z00 ～ Z03

内 容： 作業内容のコメントを記載する。

Z00 コメント(省略可)、フォーマット識別子、フォーマットバージョン(02.00で固定)

Z01 業務タイトル名(基準点のみ省略可)

Z02 測地系 (0(世界測地系)、1(日本測地系))、平面直角座標系番号(省略可) : Z02は基準点のみ適用

Z03 水準成果の種類 : Z03は水準点のみ適用

### 2) 開始データ

データ区分：A00(基準点)、S00(水準点)

内 容： 成果表データの開始フラッグ

### 3) データ

データ区分：A01(基準点)、S01(水準点)

内 容： 点番号、点名称、緯度、経度、X座標、Y座標、座標系、標高、等級

①点番号：基準点は5桁の整数、水準点は11桁の整数を標準とする。

②名 称：40バイト以下

③緯 度：小数点形式とし秒以下4桁とする。(DD° .MM' SS"SSSS)

④経 度：小数点形式とし秒以下4桁とする。(DDD° .MM' SS"SSSS)

⑤X座標：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下1桁までとする。

⑥Y座標：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下1桁までとする。

⑦座標系：平面直角座標系番号

⑧標 高：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下4桁までとする。

⑨等 級：(水準点に適用) 2桁の整数とする

11～13：1等～3等

21～24：1級～4級

25：簡易

### 4) データの終了

データ区分：A99(基準点)、S99(水準点)

内 容： 成果表データの終了フラッグ





## 測 量 標 新 旧 位 置 明 細 書

作 業 区 分	級 種別	番号・名称	新	所 在 地	地 目	敷 地 面 積	復旧を行った 理 由	設置年月日	備 考
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						

57

注. 作業区分欄には移転、改埋、再設または廃棄の区分を記載する。

用紙の大きさはA 4判とする。





# 地形測量及び写真測量



# 標定点明細表

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇)  
ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver. 〇

等級点名		1/2.5 万図名		作業者	
標識の種類	チェッカ レトロリフレクタ スフィア コーナキューブ その他	標識点	標石より	m .	点検者
			地面より	m .	設置年月日
座標系		X・N		Y・E	
点の座標	本点	m , , .		m , , .	
	偏心点	m , , .		m , , .	
	予備点	m , , .		m , , .	
点付近見取り図				地上写真	

用紙の大きさは A4 判とする。

## 標定点・地上レーザスキャナ配置図

作業名		レーザスキャナ名		計画機関名		主任技術者	
観測年月日		機器番号		作業機関名		点検者	

器械点名					
器械高					
照射数(点/秒)					
観測範囲(水平)		deg	deg	deg	deg
観測範囲(鉛直)		deg	deg	deg	Deg
最小観測間隔(水平)		deg	deg	deg	Deg
最小観測間隔(鉛直)		deg	deg	deg	Deg

標定点・地上レーザスキャナ配置図

注. 配置図には、記号と名称(例: 基準点: △123 標定点: ○1 器械点: ☆1)を記載する。  
用紙の大きさはA4判とする。

## 調整点・検証点明細表

世界測地系（測地成果〇〇〇〇）  
ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver. 〇

地区名		設置年月日		作業者	
取得路線		1/2.5万図名		点検者	
点名	座標系	X・N	Y・E	H	
地上写真（近景）					

用紙の大きさはA4判とする。



# 対空標識点明細表

世界測地系 (測地成果○○○○)

等級点名		1/2.5 万図名			作業者			
標識の様式	A B C	標識	標石より	m	点検者			
	D E 構		偏心杭より	.				
標識の色	白	点	地面より	m	設置年月日	年 月 日		
座標系		X	.	N	Y	.	E	H
点の座標	本点	m		m		m		
	偏心点	,	,	.	,	,	.	.
	予備点	,	,	.	,	,	.	.
点付近見取図				地上写真				
N								
<div style="text-align: center;">             北              ↑              C -No.      C -No.         </div>								

用紙の大きさはA4判とする。





## デジタル航空カメラ撮影記録簿

地区名		作業機関名				撮影士		操縦士		整備士	
撮影年月日	年 月 日		基地	機体	カメラ	f:	mm	離 陸	時 分	着 陸	時 分
	ft	ft						基地標高		記録処理ユニット	
撮影高度	A	B	基準面標高		A	B	センサーユニット		計器速度		
	m	m	m		m	m	kt/H				
地上画素寸法		計器高度		m		m		地上(離)		地上(着)	
気 象	天気	気流	風向	°	煙霧	気温	ft	°C	気圧	離陸	hPa
			風速	kt			ft	°C		着陸	hPa
コースNo.	開始時刻	終了時刻	露出	絞り	修正角	数値写真No.	枚数	進行方向	摘要	GNSS/IMU	GNSS/IMU初期化方法
						～				(撮影区域全体を表示する)	
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
						～					
									合 計		
									枚		

注1. 撮影されたコースは、中間検査後撮影略図のコースを赤線で表示する。  
 2. 採用時にA, Bコースと分割して採用されたときは、コースNo. 欄に「○A, ○B」と記載し、撮影略図にABコースの範囲を明確に表示する。  
 3. 基準面を異にして撮影する場合は、A, Bに区別する。

用紙の大きさはA4判とする。

## デジタル航空カメラ撮影諸元

撮影地区名		作業機関名		主任技術者	
地上画素寸法	cm	使用カメラ (製造番号)			
メディアラベル名					
番号	コース名	数値写真ファイル名	数量	撮影年月日	備考
1		～			
2		～			
3		～			
4		～			
5		～			
6		～			
7		～			
8		～			
9		～			
10		～			
11		～			
12		～			
13		～			
14		～			
15		～			
16		～			
17		～			
18		～			
19		～			
20		～			
21		～			
22		～			
23		～			
24		～			
25		～			
26		～			
27		～			
28		～			
29		～			
30		～			

用紙の大きさはA4判とする。



## 空中写真数値化 作業記録簿・点検記録簿

地 区 名		作業機関名		作 業 者	
数値化年月日		撮 影 縮 尺		航空カメラ	
使用スキャナ装置		スキャナ 点検証明書 取得年月日		点検機関名	

点検項目

項 目	内 容	良 否	備 考
ランプ	スキャナランプ切れ・照射不足がないかを確認する		
電源	スキャナの電源部分に故障がないかを確認する		
システム	数値化ソフトウェアが正常に動作することを確認する		
動作異常	スキャナ動作時における動作異常がないことを確認する		
テストスキャン	数値化結果に幾何精度・輝度値に異常がないかを確認する		

コース No.	開 始 時 刻	終 了 時 刻	数値化 寸法	ビット 数	画 像 形 式	写 真 番 号	枚 数	飛 行 方 向	摘 要	(撮影地域全域を表示する) N ↑ +↓
								枚	合計	
								枚	枚	

用紙の大きさはA4判とする。

注1. 数値化寸法の単位はmmとする。  
 2. ビット数が「8」は白黒、「24」はカラーを意味する。

## 航空レーザ測量システム点検記録

作業名		機 体		年	月	日
				点検者		
キャリブレーションサイト名						
機器名		番号				
離陸時間	時	分	計測開始	時	分	
着陸時間	時	分	計測終了	時	分	

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備 考
C-							

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (角度)	備 考
C-							

横縮尺キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値	備 考
C-							

標高値（測距）キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正値 (cm)	備 考
C-							

キャリブレーション後の標高差
cm

用紙の大きさはA4判とする。

# 固定局明細表

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇)  
ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver〇

点名		1/5万地形図名		観測者	
観測年月日		標識種類		点検者	
所在地					
所有者	連絡先				
座標系	平面直角座標系				
座標	X	m	標高	m	
	Y	m			
経緯度	B				
	L				
電子基準点番号					
GNSS機種		解析ソフト名			
観測レート		秒	仰角	° 以上	
機械高		m	観測時間	h	m
PDOP			衛星数	衛星	
平面位置図			観測写真		

用紙の大きさはA4判とする。

# 航空レーザ計測記録

地区名		作業機関名				計測士		操縦士		
計測年月日		基地		機体		JA		離陸時間	時 分	
高度		基地標高		速度		着陸時間		時 分		
		基準面				計測機器名 No.				
気象	天気		気流		風向	°	風速		気温	°C
コース	開始時間	終了時間	偏流角	コース	開始時間	終了時間	偏流角	撮影略図		

注1. コース番号は、連続の場合は省略してもよい。開始時間、終了時間は最初と終了で途中のコースは省略できる。  
 2. 偏流角も適宜省略できる。  
 用紙の大きさはA4判とする。

# 調整用基準点・ コース間点検箇所 配点図

作業年度	地区名	作業機関名	
			(計測コース)

- 注1. 一覧図は、1/25,000地形図又は1/50,000地形図を使用する。  
 2. 調整用基準点は一辺4mmの正三角形、点検ポイントは半径2mmの円で表示する。また、名称を記載する。

用紙の大きさはA4判とする。

バスポイント：▽番号  
 タイポイント：○番号  
 注. 各点は、記号と番号を用いて  
 コースに対しての位置関係を正しく  
 記入すること。



## 調整用基準点明細表

世界測地系（測地成果〇〇〇〇）  
ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver〇

地 区 名		1/5万地形図名		作 業 者			
作業年月日		座 標 系		点 検 者			
点 名	X	・	N	Y	・	E	H
1/2.5万見取図				地 上 写 真			
計測点図							

用紙の大きさはA4判とする。

# 三次元計測データ点検表

世界測地系 (測地成果○○○○)

地区名				作業者		
				点検者		
点名				実測値	H =	m
N o.	X	Y	Z	$\Delta Z$ 較差(H-Z)	備考	
点数(n)						
平均値 ( $\overline{\Delta Z}$ )						
最大値						
最小値						
RMS誤差 = $\sqrt{\frac{\sum(\Delta Z)^2}{n-1}}$						

用紙の大きさはA4判とする。

# 調整用基準点調査表

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇)

地区名						作業者			
						点検者			
番号	点名	水準結果	三次元計測 データの平均	水準との差 $\Delta H$	番号	点名	水準結果	三次元計測 データの平均	水準との差 $\Delta H$
1					11				
2					12				
3					13				
4					14				
5					15				
6					16				
7					17				
8					18				
9					19				
10					20				

	データ数	平均値(m)	最大値(m)	最小値(m)	最大値-最小値	標準偏差 $= \sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n}}$
計測範囲全域の 水準との差						

用紙の大きさはA4判とする。



## 欠測率調査表

地区名							作業者	
							点検者	
図名	欠測率%	図名	欠測率%	図名	欠測率%	図名	欠測率%	
全域平均		最小		最大				

用紙の大きさはA4判とする。

# 調整用基準点残差表

地区名							作業機関名			
							作業者		点検者	
点名	実測値			調整前			調整後	較差	備考	
	X	Y	H	X	Y	H	H	(m)		
* 電子計算機タイプの場合は、その用紙を使用できる。 ただし、上記の内容を満足するものとする。				調整量(m)						
				最小値						
				最大値						
				平均値						
				標準偏差						
				RMS誤差						

78

注.  $RMS誤差 = \sqrt{(平均値)^2 + (標準偏差)^2}$

用紙の大きさはA4判とする。

## 既存データ検証結果表

地区名 (A)					作業者	
隣接地区名 (B)					点検者	
図名	計測点数		計測点標高平均値		較差	備考
	A地区	B地区	A地区	B地区		
*本地区をA地区とし、隣接地区をB地区とする。				最小値		
				最大値		
				平均値		
				RMS誤差		

注.  $RMS\ 誤差 = \sqrt{(平均値)^2 + (標準偏差)^2}$

用紙の大きさはA4判とする。





# 応用測量



## 点 の 記

路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類	路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鋸、刻み			木杭、プラ杭、鋸、刻み
所在地			所在地		
要 図			要 図		
路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類	路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鋸、刻み			木杭、プラ杭、鋸、刻み
所在地			所在地		
要 図			要 図		

用紙の大きさはA4判とする。

年 月 日

土地所有者	住 所	
	電話番号	
	氏 名	印
隣接土地所有者	住 所	
	氏 名	印
	住 所	
	氏 名	印
	住 所	
	氏 名	印

## 土 地 境 界 確 認 書

下記記載の土地の境界は、現地で立会いのうえ、相違ないことを確認しました。

都 市 区 町 村  
県 郡

区分	大 字	字	地 番	地 目	登記簿地積	登 記 名 義 人	摘 要
対							
	不動産番号						
象							
	不動産番号						
地							
	不動産番号						
隣							
	不動産番号						
接							
	不動産番号						
地							
	不動産番号						
	不動産番号						

用紙の大きさはA4判とする。

# 土地調査表

不動産登記簿				分	用地		土地の登記記録調査	調査年月日	整理番号	調査者		
表題部		甲区欄			符号	地積	法人登記簿又は商業登記簿調査					
所在地	都 郡 区			割			権利者調査	月				
	県 市						現況調査	日				
	町 大字 字						残地				課税評価額	
	村						符号	地積			所有者以外の権利又は仮登記及び予告登記の調査	
不動産番号			部									
地積												
所有者	連絡先電話番号											
備考				現況調査	地目						地積	
者記業 法簿登 人又記 は簿 商調 権査 利登				その他土地等の評価に必要な資料の調査								

## 建物の登記記録等調査表

		調 査 年月日			調 査 者			整 理 番 号	
1. 建物の登記記録調査						不動産番号			
所 在 地	都 市 区 町 大字 字 番地 県 郡 村								
所 有 者	住 所 又 は 所 在 地								
	氏名又は法人・代表者氏名				生 年 月 日				
					電 話 番 号				
家 屋 番 号	主 家 ・ 付 属 の 別	種 類	構 造	床 面 積	建 築 年 次	備 考			
所有権以外の権利者に関する事項及び仮登記等の事項					法定代理人等				
2. 立木の登記記録及びその他の登記簿調査									

用紙の大きさはA4判とする。

# 権 利 者 調 査 表

				調 査 年月日		調 査 者		整 理 番 号	
土地に関する権利者 (被相続人又は法人)	住 所 所 在 地		法定代理人又は保佐人 の住所及び氏名	住 所		氏 名			
	氏名又は名称 生 年 月 日								
	本 籍 地		法人を代表する者の住 所及び氏名	住 所		氏 名			
	相 続 年 月 日								
相続人の氏名	生 年 月 日 死 亡 年 月	被相続人との続柄	住 所	本 籍	相続分	摘 要	符 号		

注 1. 「摘要」の欄には相続放棄、相続欠格などを記入のこと。

2. 相続系譜は別紙に作成すること。

用紙の大きさはA 4 判とする。





## 4. 建標承諾書

## 建 標 承 諾 書

年 月 日

殿

所有者 住所

管理者 氏名

印

基 準 点	等 級	名 称	標 識 番 号
	級		

所在地	都道府県	市 郡	町 村	大 字	字	番 地	俗 称	地 目

上記 地内に 級 点の標識を  
設置することを承諾する。

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. この標識は○ ○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
2. なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
3. 不要の文字は抹消すること。

建 標 承 諾 書

年 月 日

殿

所有者 住所

管理者 氏名

印

水 準 点	等 級	名 称	標 識 番 号
	級		

所在地	都道府県	市 郡	町 村	大 字	字	番 地	俗 称	地 目

上記 地内に 級 点の標識を  
設置することを承諾する。

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. この標識は○ ○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
2. なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
3. 不要の文字は抹消すること。



## 5. 確定測量点検記録表等



## 筆界点座標検測記録簿

観測点名	検測点名	観測値		検測値		$\Delta X$	$\Delta Y$	差	制限
		X	Y	X	Y				
		km m	km m	m	m	mm	mm	mm	mm
		平成 年 月 日	整理抄写	記入者			点検者		

用紙の大きさはA4判とする。





## 6. 標準様式の記載における注意事項

## 標準様式の記載における注意事項

1. 標準様式の記載に当たっては、各様式の「注」に留意すること。
2. 「年」の記載は、以下の点に留意すること。

年を西暦で記載するときは、4桁の年の数字で表記するものとし、元号を付して記載するときは当該元号又はその略号に年の数字を続けて表記するものとする。